

公開講座

講演会

なぜ今、子どもは生きづらいのか？

日時：9月3日(土)
10:30～13:00

場所：市川市文化会館 地下1階
大会議室(ローズルーム)

(JR本八幡駅南口徒歩10分、京成八幡駅から12分)

講師：中西新太郎さん

(横浜市立大学 国際文化部教授)

定員：120名(定員になり次第しめきり)

対象：子どもや子育てに関心のある方 チャイルドライン・ママパライン受け手、支え手、スタッフ

参加費：1人 1,000円(当日持参)

日本の子どもや若者の生きづらさは、どこから来るのでしょうか？また、日本の子どもたちの自己尊重感情がきわだって低いのは、なぜでしょうか？

子どもや若者がぶつかっている特異な困難さや、子どもたちに何が起きているのかを知り、若者たちが生きやすい場所や、生活文化環境づくりについて、今一度深く考え合いましょう。子どもや子育てに関心のある方、奮ってご参加ください。

内容

子ども・若者の生きづらさはどこから来るか

格差と新しい競争

人間関係を築くとは？

使い捨てられる若者たち

子ども・若者の生きやすい場所をつくるために

申し込みしめきり 8月20日(土) このまま切らずにFAXかメールで申し込んでください。

「なぜ今、子どもは生きづらいのか？」 参加申し込み書		月	日
お名前		所属	
連絡先住所		連絡先 TEL	

主催：(問い合わせ先・申し込み先) 特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉2-17-6 サンコート新千葉102号

TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263 Email:kidchiba@lily.ocn.ne.jp

当日緊急連絡先：090-4936-3051(白鳥) 080-5503-8859(中川)



1948 年生まれ
 東京都立大学人文学部卒業
 現在、横浜市立大学国際文化学部教授
 文化社会学を専攻領域とし、オウム真理教事件をきっかけに、近年は、子どもや若者の成長にかかわる文化現象に関心を持つ。
 主な著書として、
 「情報消費型社会と知の構造 学校・知識・消費社会」
 「思春期の危機を生きる子どもたち (HARUKA SELECTION)」
 「子どもたちのサブカルチャー大研究」

市川市文化会館
 JR 総武線本八幡駅南口より徒歩 10 分



(千葉県市川市大和田 1-1-5 TEL 047-379-5111)



チャイルドライン R 千葉

18 歳までの子どもがかけられる子ども専用の常設電話です。電話を通じて子どもの気持ちに共感しながら心の声を聴き、子ども自身の力で問題解決できるようサポートします。指導や指示はしません。もちろん秘密は守ります。全国どこからでもフリー・ダイヤル (無料) でかけられます。

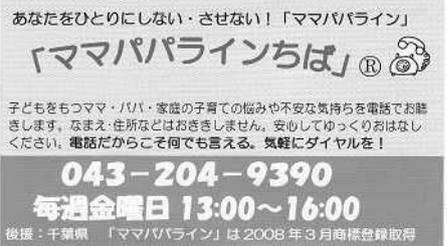
千葉では、1999 年から開設し、月曜日から土曜日 16:00 ~ 21:00 に開設し、11 年間で 56,516 件を受けています。研修を積み重ねた 100 名の傾聴ボランティアが子どもたちの辛さ、怒り、不安、喜び等、子どもの“今”に向き合っています。全国各地 65 団体でも同様に開設し、子どもが育つ環境改善のための社会発信もしています。



ママパライン R ちば

傾聴などの研修を受けた市民ボランティアが、子育て中のママ・パパ (養育者) の不安や悩みを共感的に聴き、温かく受け止める電話での支援です。匿名の民間の電話という垣根の低さと、批判や指図をせず受け止めることにより、安心して気持ちを吐露できることが特徴的です。ストレスを溜め込み、孤立した母親・家族のいっばいだった気持ちが解放され、前向きになり、また子どもに向き合う気持ちになる、その変化はしばしば劇的で驚くほどです。

ママパラインは、傾聴による虐待予防的効果とともに、地域での傾聴ボランティアの育成により、失われた地域社会の人的なつながりを取り戻すことも目指しています。2002 年度から開設し、2006 年度から毎週金曜日 13:00 ~ 16:00 に開設しています。全国 6 箇所でも同様に開設しています。



チャイルドライン千葉では、電話を受ける『受け手』を募集しています。